

2019年7月28日(日)朝10:10～ 主の聖霊降臨節第8、記念会等  
7月第4共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**主が静めた嵐を見て(26～27節)**

聖書：マタイ 8章23～27節

＜口語訳＞

新約聖書11～12頁

マタイ 8章23～27節

＜新共同訳＞

新約聖書14～ 頁

マタイ 8章18～22節

＜新改訳第3版＞

新約聖書14～ 頁

マタイ 8章23～27節＜塚本訳＞

新約聖書88～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き  
によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日の**マタイ8:23～27**は、「**主が静めた嵐を見て**」の主題のように、主の弟子たちの反応と主のおことばが示され、また群衆たちの驚きも記されています。
- ⇒先週は、律法学者と主の弟子たちの「**神信仰**」が、試されたのですが、再び弟子たちの「**神信仰**」が、試されています。
- ⇒「**舟**」は、弟子たちにとり、**御子イエス・キリスト様**との生活空間であり、「**嵐**」は、生活空間を混乱させ、**御子イエス・キリスト様**への**神信仰**を試されるきっかけ、要因です。
- ⇒「**嵐を静める奇蹟**」は、**御子イエス・キリスト様**がなされたから、**使徒マタイ**は、「しるし」とも、呼びます。「しるし」は、「標識か記号のように生ける神の行為を指し示す」と、**OA師**は、語っておられます。

本論；

◇本日、**マタイ書8章23～27節**から主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ8章23～27節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が「**嵐を静める奇蹟・しるし**」を通して、「**なんでそんなに臆病なのか信仰の小さな人たちよ**」と、「**主の弟子たち**」に語りかけられました。

◇**23～27節**；**塚本訳◆暴風を静める**

「23 舟に乗られると、弟子たちも従った。

24 するとにわかには湖に激しい嵐がおこって、ついに舟は波をかぶった。しかしイエスは眠っておられた。

25 弟子たちがそばに来て、「主よ、お助けください、溺れます」と言って起した。

26 彼らに言われる、「なんでそんなに臆病なのか、信仰の小さい人たちよ！」それから起き上がって風と湖とを叱りつけられると、(たちどころに)大風になった。

27 人々は驚いて、「この方はどうした人だろう、風も湖も、その言うことを聞くのだが」と言った。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**23～26節**；「舟に乗られると、弟子たちも従った」、「するとにわかには湖に激しい嵐がおこって、ついに舟は波をかぶった。しかしイエスは眠っておられた」、「弟子たちがそばに来て、弟子たちがそばに来て、『主よ、お助けください、溺れます』と言って起した」、「彼らに言われる、」、「それから起き 上がって風と湖とを叱りつけられると、(たちどころに)大風になった」と、「激しい嵐」は、「大風」に変えられ、「**御子イエス・キリスト様**」は、『なんでそんなに臆病なのか、信仰の 小さい人たちよ！』と、語られたのです。

⇒**使徒マタイ**は、「激しい」と、「地震のような甚だしい激震」を意味することばを使って、「大風」の違いを表現し、現実には危機感をもったということで、教会の苦難を負った**マタイの時代**を思い起こした記録でもあると問う立場もある。

◇**27節**；「人々は驚いて、『この方はどうした人だろう、風も湖も、その言うことを聞くのだが』と言った」、「人々は、弟子を含む群衆」でしょう、「彼らは、主のなさったことを見て」、驚いた。

⇒「**驚き**」も、①疑いの心もある驚きと②神の

- 奇跡を信じて、感動しているの両面がある。
- ⇒ 私たちは、主のわざを信じて、感動したい。  
人間の自然理解では、海や嵐が主の命令に従うことを受け入れることができません。
- ⇒ 人間の感覚を疑う必要はありません。**神の御子イエス・キリスト様**は、天地万物を支配できるお方です。無から有を生み出すことは、人にはできないことです。
- ⇒ 有限の人間と無限の主との間には、越えられない限界があり、分析して、見つかった要素を組み立て直しても、元の通りにはできません。
- ⇒ 人間は、創造の時、完璧に出来上がりましたが、神のいのちがありませんでした。神が息(いのち)を吹き込んで生きた者となったのです。生きた者とは、神のいのちの中で生き、動けるということです。
- ⇒ 人間自体が、奇蹟のかたまりです。命令もしないのに、心臓は動き続け、寝ている時も、呼吸しつづけています。
- ⇒ 自然界も、不思議で一杯です。神の指示に従って、生きることが最善なのです。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
- ◇本日の**マタイ8:23～27**は、「**主が静めた嵐を見て**」、主の弟子たちは主のおことばが示され、また群衆たちの驚きも記されています。
- ⇒先週は、律法学者と主の弟子たちの「**神信仰**」が、試されたのですが、再び弟子たちの「**神信仰**」が、試されています。
- ⇒「**舟**」は、弟子たちにとり、**御子イエス・キリスト様**との生活空間であり、「**嵐**」は、生活空間を混乱させ、**御子イエス・キリスト様**への**神信仰**を試されるきっかけ、要因です。
- ⇒「**嵐を静める奇蹟**」は、**御子イエス・キリスト様**がなされたから、**使徒マタイ**は、「**しるし**」とも、呼びます。「**しるし**」は、「**標識か記号のように生ける神の行為を指し示す**」と、**OA師**は、語っておられます。

- ◇「この方はどうした人だろう、風も湖も、その言うことを聞くのだが」(27)は、大事なことばです。「なんでそんなに臆病なのか、信仰の小さい人たちよ！」と、語り、「それから 起き上がって風と湖とを叱りつけられると、(たちどころに)大風になった」(26)のです。
- ⇒ 私たちも、「お供します」と、主に聴きつつ、主の思いと違ったり、主に聴き従う機会を失う。
- ⇒ 主は、「『狐には穴がある、空の鳥には巣がある。しかし人の子(わたし)には枕する所がない。(その覚悟があるか。)]』と、問いかけられたように、「(今すぐ)わたしについて来なさい。死んだ者の葬式は、死んだ者にまかせよ」と問いに、本気で主を信頼して生きましょう。
- ⇒ 百人隊長のように、ただおことばを下さい、長血を患った女性のように主の衣に触れ、血のもとが引いた経験が彼女を勇気づけ、罪の赦しを獲得し、ペテロの姑やヤイロの娘は、手を触れて、起こしてもらったら、立ちあがったのです。
- ⇒ お心の中のわだかまりが、人から主のことばに聴き従うことを妨げているのです。